



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

# ブリリアンス Next Stage 第5号

## ～ありのままに今を輝く～

江東区立南砂中学校だより



校長 近藤 啓太

### 心の豊かさを育む「手話狂言」～伝統芸能と情操教育の出会い～

先日、本校にて文化庁主催の巡回公演事業として「手話狂言」の鑑賞教室を開催しました。私自身、手話狂言を鑑賞する機会があり、デフリンピックの開催など手話への関心が高まっている時期とも重なり、子供たちにも体験させたいと思っていました。副校長の尽力もあり、念願叶ってこの特別な時間を全校で共有することができました。



#### ○ 「手話狂言」とは？

手話狂言は、黒柳徹子さんの発案で始まり、約40年の歴史を持つ伝統芸能です。最大の特徴は、舞台上で「日本ろう者劇団」の俳優が手話で演じ、舞台袖でプロの狂言師がその動きに合わせて声を当てるという独自のスタイルにあります。これにより、聞こえる人も聞こえない人も共に物語を楽しみ、笑い合える空間が生まれます。

#### ○ 学びと笑いの90分+50分

今回の公演は単なる鑑賞にとどまらず、各学年で「ろう者について学ぶ時間」がありました。耳が聞こえないことで日常生活にどのような困りごとがあるのか、私たちはどのようなサポートができるのか、そして狂言で使われる簡単な手話についても楽しく学びました。



上演前には、狂言特有の擬音や、演目「ぶす」の解説が行われ、準備万端で幕が上がりました。いざ始まると、演者の豊かな表情と手話による躍動感あふれる表現に引き込まれ、会場は笑いと熱気に包まれました。

上演後は狂言で使われた手話のおさらいを、また質問コーナーでは多くの質問への回答や校歌を手話で行うリクエスト等、心を通わせる貴重なひとときとなりました。



#### ○ 「情操教育」の大切さ

歌舞伎やオペラ、絵画などもそうですが、文化・芸術を深く楽しむためには、ある程度の知識や教養という土台が必要です。知識があるからこそ、その奥にある良さを理解し、また人生をより豊かに彩ることができます。私は常々、子供たちに必要なのは、目先の技術を習得する早期教育よりも、豊かな感性を養う「情操教育」であると考えています。社会が複雑化し、効率や文明の進歩が優先されがちな現代だからこそ、今回のように「相手を理解しようとする心」や「伝統の美しさを感じる心」など、決して忘れてはいけない、省略してはいけない価値があるはずです。

今回手話狂言に触れた体験が、子供たちの心に小さな種をまき、多様な人々が共生する社会への理解と、豊かな感性を育む一歩となってくれることを願っています。次はご家族で、能楽堂をご覧ください。

【保護者感想】（長文で多数いただきましたが一部抜粋して紹介します。）

○ 体育館に設営された舞台の雰囲気や、劇団員の方の声の響きに、最初は圧倒されましたが、舞台前後の分かりやすい説明で、難しいイメージがあった狂言を、楽しく観劇することができました。質問タイムに生徒から出た要望に対して表現してくださった手話の校歌では、歌に手話を合わせるとこんなに美しいものなんだと感動しました。

○ 手話を少し習ったことがあり、手話と狂言を合わせると手話表現がゆっくりと入ってきて分かりやすく相性が良いと感じました。また、舞台が素晴らしく本物の雰囲気が味わえました。とても工夫してされていると感じました。

○ 私自身、学生の頃狂言を観に行ったことがあるのですが、帰宅後子供も面白かったと話していたので、家族でまた狂言や手話狂言の観劇に行けたらと思いました。子供達が様々に知見を広げられる経験を得られることを（そこに折々保護者も参加させていただけることも）いつもありがたく思っています。

○ 聾者と聴者が共に表現でき、共に鑑賞できる手話狂言を通して、芸術におけるインクルーシブの一つを直接目にすることができ、良い経験となりました。子どもたちにとって、この経験が点に終わらず線となっていくよう、今後もこういった場を提供していったらいいと思います。

○ 言葉だけでなく、表情や動き、手話によって感情や場面が伝わり、物語の世界に引き込まれました。

## 6月の行事紹介

## 【1年生 SDGsラジオ出前授業】 6月12日(金)

6時間目に、(株)ケンオンから2名の講師をお招きし、各クラスで授業をしていただきました。

この授業ではSDGsに関連するラジオを聴き、各自が内容を題材にした「謎解き」の謎作成に挑戦しました。また、自分で作成した問題をクラスの前で発表しあい、楽しみながらSDGsについて学ぶことができる良い機会となりました。SDGsは、今後のNTT(南中探究タイム:総合的な学習の時間)で継続して学び、文化祭で中間発表をする計画です。(1学年だよりから抜粋)



## 【3年生 租税教室】 6月18日(木)



東京税理士会江東東支部より2名の税理士の先生をお招きし、3年生対象の「租税教室」を行いました。

授業ではまず、「身の回りにどんな税金があるか」を話し合いました。消費税や所得税、住民税、自動車税など、私たちは想像以上に多くの税金に囲まれて暮らしている事実、生徒からは驚きの声が上がりました。さらに一歩踏み込み、税金の集め方にある2つの考え方について学びました。受けるサービスに応じてみんなで等しく負担する「応益負担」(消費税など)と、払う能力に応じて多く負担する「応能負担」(所得税など)です。

これらを踏まえ、「たくさん稼いでいる人が多く払うのは公平なのか?」「みんなが安心して暮らすためにはどうあるべきか?」という難しいテーマに挑戦。生徒たちは互いの意見を熱心に聴き合いながら、社会の「支え合いの仕組み」について考えました。(3学年だよりから抜粋)

## 【50周年記念!個性輝くモザイクタイル制作】 6月24日(水)

周年行事の一環として「モザイクタイル制作」を行いました。体育館に長机をずらりと並べ、学年一斉に3時間をかけて作品づくりに挑みました。この企画は、地域学校協働本部や石原タイル工業の強力なサポートのもとで実現したものです。材料の準備から当日のサポート、そして片付けまで、石原さんはじめ教職員の協力もありました。

作業が始まると、体育館はクリエイティブな熱気に包まれました。生徒たちは、思い思いのデザインを形にしていきました。自分ログには「とにかく楽しかった!」「時間が足りないくらい集中した」といった感想があふれており、充実した時間を過ごせたことが伝わってきました。

作品は、式典での装飾に使う予定です。(2学年だよりから抜粋)



## 【C組 校外学習(上級学校訪問&amp;施設見学)】 6月25日(木)

野田鎌田学園杉並高等専修学校と消防博物館を訪問し、事前学習で学んだことを生かして、充実した一日を過ごすことができました。

野田鎌田学園では、学校の特色について説明を聞いたり、実際に授業の様子を見学したりしました。すれ違う学生や案内をしてくださった先生方に、しっかり挨拶やお礼の言葉を伝えることができました。そして最後に学生の皆さんが実習で作ったマドレーヌをいただきました!

消防博物館ではかつて使用されていた消防車やヘリコプター、街並みなどを再現したパノラマなどに興味津々でした。消防の歴史に関するクイズや消防隊になって消火活動をするゲームを通して、消防に関することを楽しく学びました。また、「トンビ(鳶)に油揚げをさらわれる」や「叩き起こす」が江戸時代の火消(ひけし)が語源になっている説があるという、落語のような解説も面白かったです。

(C組学級通信から抜粋)

※野田鎌田学園杉並高等専修学校(東京都杉並区)は、国家資格である調理師免許やITスキルと、「あずさ第一高校」の卒業資格(高卒資格)を同時に取得できる私立の高等専修学校です。

## 【お願い】

7月1日(水)から三者面談を行います。この時期にあわせ、年に2回学校評価アンケートをとっております。学校経営方針や4月からの教育活動におきまして、ご意見・ご感想を是非お寄せください。